

# 秋田大学国際戦略

2021年5月

## 目 次

	(ページ)
はじめに-----	1
第1章 国際戦略-----	2
1. 戦略1 国際性豊かな人材の育成-----	2
2. 戦略2 海外大学との連携促進-----	4
3. 戦略3 国際共同研究の推進-----	6
4. 戦略4 大学の国際化に対応した教職員の資質能力の育成-----	7
第2章 国際戦略の評価体制-----	8
第3章 国際戦略の見直し-----	9
(別紙) 学部ごとの数値目標-----	10

はじめに

秋田大学では、2011（平成 23）年 3 月に、「国際戦略」を策定し、「国際的人材育成」、「国際的学術研究」、「国際連携協力」、「国際交流体制整備」の 4 領域において大学の国際化を推進してきた。

その後、2013（平成 25）年に秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室が設立されて以降、2021（令和 3）年 3 月現在、海外拠点は 5 ヶ国 7 拠点を数えるようになった。

2014（平成 26）年に設立された国際資源学部では、これらの海外拠点を基盤として、海外協定校との共同研究や教育活動を推進している。また、研究助成機関から外部資金を獲得して、海外協定校と「大学の世界展開力強化事業」や「研究拠点形成事業」などの事業を通して、共同研究を積極的に行っている。

海外の大学との連携は全学的に行われており、2021（令和 3）年 3 月現在、大学間協定の締結国・地域は 33 ヶ国・地域、67 大学となった。これらの協定校とは、本学生と海外留学生の交換留学を行っている。また、コロナ禍の現在、日本人学生と留学生の交換留学の実施が困難であることから、オンラインを活用したバーチャル留学を実施するなど必要な学修機会が確保されるよう留意している。

海外から本学に留学する学生の数は、近年、概ね年間 200 名を推移しており、各学部における留学生の受入れ体制も整備されてきている。

2019（平成 31）年 4 月には、高等教育グローバルセンターが設立され、本学の国際化を推進する体制が強化された。

こうした流れを受けて、国際戦略を策定した 2011（平成 23）年当時とは、現在の学内外を取り巻く状況が大きく異なっていること、さらに、大学の果たすべき国際的な役割が高まってきていることから、今回、国際戦略を改訂するに至った。

改訂に当たっては、本学の中期目標・中期計画、コロナ禍での教育活動、文部科学省など国の方針などとの整合性も考慮して実施した。

また、国際戦略の改訂後には、アクションプランを策定し各年度末に評価を行うこと、国際戦略の推進状況に応じて、必要に応じて国際戦略の見直しを行うことも盛り込んだ。

## 第1章 国際戦略

### 1. 戦略1 国際性豊かな人材の育成

社会のグローバル化が急速に進展する中、大学において国際社会で活躍する人材の育成が急務となっている。こうした状況に鑑み、本学の国際化をこれまで以上に推進する必要がある。

国際性豊かな人材を育成するために、留学生の受入れ及び本学生の海外留学を促進する。

まず、留学生の受入れを促進するため、留学生が留学しやすい環境を整備することが大切である。具体的には、学内において、シラバスの英語化、英語で実施されるプログラムの構築、留学生が安心して学修や生活を送れるように留学生宿舎の確保及び宿舎内のICT環境の整備を行う。英語で実施されるプログラムの検討に当たっては、各学部の実情を踏まえて、行うものとする。また、留学生が必要な情報を英語で入手できるように、英語での対外的な発信の充実を図る。ホームページや各種パンフレットのほか、学内の掲示、案内の英語化を促進する。留学生の受入れは、2024（令和6）年度末までに年間250名の達成を目指す。

また、本学生の海外留学を促進するためには、英語力の強化が不可欠である。そのため、TOEICなどの外部資格・検定試験を活用して進級要件化することにより、英語力の強化を図る。各学部の2年次から3年次の進級要件をTOEIC400点以上とする。TOEICなどの外部資格・検定試験の進級要件化に際しては、教員、カリキュラム、教材等の必要な条件整備を行うとともに、学生の負担過重にならないよう十分配慮するものとする。また、本学の入学志願者に対しても、TOEICが進級要件になることを事前に周知し、十分な理解を得られるように努める。

さらに、海外研修やインターンシップの機会の提供、留学説明会や留学生交流イベントの実施などの施策を行う。

併せて、全学部において、単位互換、ダブル・ディグリー・プログラムを構築することによって、学生が留年や休学をすることなく留学できる機会を創出する。単位互換は2024（令和6）年度末までに5校、ダブル・ディグリー・プログラムは2024（令和6）年度末までに新規で2校の達成を目指す。

以上の施策の実施を通して、2024（令和6）年度末までに本学の在学生の海外への留学・研修経験者の割合を20%以上とすることを目指す。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の現状を受けて、協定校との間で交換留学が実施できない状況や新しい生活様式に適応するという視点も見据えて、オンラインを活用したバーチャル留学を実施する。2024（令和6）年度末までに4プログラムの実施を目指す。

なお、戦略1の達成目標として掲げる「留学・研修経験者の割合を20%以上」、「単位

互換の実施」、「ダブル・ディグリー・プログラムの構築」、「バーチャル留学の実施」に関しては、10 ページに示したとおり、学部ごとの目標数値を定めて、目標達成に向けて全学で取り組むこととする。

① 留学生の受入れ促進

- a. シラバスの英語化の促進
- b. 英語で実施されるプログラムの構築
- c. 留学生宿舎や ICT 環境の整備
- d. 英語での対外的発信の充実

② 本学生の海外留学の促進

- a. TOEIC などの外部資格・検定試験の進級要件化による英語力強化
- b. 海外研修やインターンシップへの参加
- c. 留学説明会や留学生交流イベントの充実

③ 受入れ促進・海外留学促進の共通項目

- a. 単位互換の実施
- b. ダブル・ディグリー・プログラムの構築
- c. バーチャル留学の実施

## 2. 戦略2 海外大学との連携促進

海外の大学との連携を促進するため、大学間協定を締結して、それを基盤に協定先の大学と共同研究、研究者間交流、学生間交流などの取組を積極的に行う。

大学間協定を締結するに当たっては、各学部・研究科で国際化に向けたビジョンを策定し、それに基づき、例えば、特定の大学、特定の国・地域の大学と協定を締結して、特定の分野で連携を促進するなど、戦略的に行う。大学間協定の数は、2024（令和6）年度末までに、2020（令和2）年度を基準として20%増を目指す。

2021（令和3）年3月現在、本学の海外拠点は、5ヶ国において7拠点が設置されている。これらは共同研究や国際連携等の拠点として活用されており、本学と海外の大学との連携を促進する上で重要な役割を果たしている。前述した各学部・研究科で策定する国際化に向けたビジョンに照らして、海外拠点を活用した国際化の在り方を検討する。

今後は、海外拠点の数を増加させて、2024（令和6）年度末までに、新規で3拠点を設置し、既存の拠点と合わせて計10拠点の設置を目指すとともに、海外拠点を基盤として、海外大学との教育・研究分野における連携促進に繋げていく。

また、大学の国際展開を推進して、海外校を設立する。これにより、本学の国際的なプレゼンスを高めるとともに、教育資源を海外に普及することが可能となる。さらに、海外の大学との共同研究及び学生・教職員の海外研修の機会の拡大、海外における情報収集や本学の広報など多くのメリットが期待される。海外校の設立に際しては、本学が海外において行う学位授与等につながる教育課程について、その制度的な位置付けについて所要の整備を行うとともに、国際的な信頼性・通用性の確保の観点から、大学の質の保証に関する取組を行う。

本学には、年間約200名の留学生在籍しているが、本学に在籍したことのある留学生を対象とした国別の海外同窓会を設立する。これにより、留学生間のネットワークの構築や留学生を通じた現地でのリクルーティングによる本学への留学生の受入れ拡大などの効果が期待される。

なお、戦略2の達成目標として掲げる「海外拠点の設置」に関しては、10ページに示したとおり、学部ごとの目標数値を定めて、目標達成に向けて全学で取り組むこととする。

### ① 大学間協定の戦略的締結

- a. 各学部・研究科で国際化に向けたビジョンを策定し、大学間協定を戦略的に締結

### ② 海外拠点の設置と研究・教育交流の活性化

- a. 各学部・研究科で策定する国際化に向けたビジョンに照らして、海外拠点を活用した国際化の在り方を検討

- b. 海外拠点数の増加とともに、海外拠点を基盤とした海外の大学との教育・研究交流の活性化

③ 海外校及び海外同窓会の設立

- a. 留学生間のネットワークの構築や留学生を通じた現地でのリクルーティングによる本学への留学生の受入れ拡大

### 3. 戦略3 国際共同研究の推進

本学の国際競争力や国際的なプレゼンスを高めるため、国際共同研究を推進する。このため、例えば、科学技術振興機構（JST）の「地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム（SATREPS）」、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」、日本学術振興会（JSPS）の「研究拠点形成事業」などの外部資金を獲得できるよう積極的に取り組む。

さらに、協定校等と国際シンポジウムの開催・共催などを通して、優れた研究成果を国際的に発信することにより、本学の世界的な評価を高めていく。

特に、資源系分野は、国際資源学研究科及び国際資源学教育研究センター（ICREMER）が連携して国際的共同研究を積極的に推進する。

同時に、各研究者が優れた国際共同研究を行えるように支援体制を構築する。また、学術の発展のためには、我が国の未来を支える研究者の養成や資質の向上が不可欠であることから、例えば、海外派遣の強化などを通して、大学院生・若手研究者の育成及び外国人研究者の採用の充実を図る。

#### ①国際的教育・研究プログラムの実施

- a. 外部資金の積極的な獲得（SATREPS、大学の世界展開力強化事業、研究拠点形成事業など）

#### ②国際シンポジウムの開催・共催

- a. 協定校等との国際シンポジウムの開催・共催

#### ③大学院生・若手研究者の育成及び外国人研究者の採用に向けた取組の充実

- a. 海外派遣の強化

#### 4. 戦略4 大学の国際化に対応した教職員の資質能力の育成

大学の国際化に対応して、国際業務担当教職員の資質能力の向上は喫緊の課題である。大学の国際業務担当教職員には、国際業務に必要な知識、英語運用能力に加え、国際的な視野を持ち、国際的要素を包含する諸課題に対する問題解決能力を持つことが求められる。

このような人材を育成するため、各種研修を充実させるなどの方策により、教職員の資質能力の向上を図る。

## 秋田大学国際戦略

### 戦略1 国際性豊かな人材の育成

- ①【留学生の受入促進】
  - ★2024（令和6）年度末までに年間250名
  - ・シラバスの英語化の促進
  - ・英語で実施されるプログラムの構築
  - ・留学生宿舎やICT環境の整備
  - ・英語での対外的発信の充実
- ②【日本人学生の海外留学促進】
  - ★2024（令和6）年度末までに全体の20%以上
  - ・TOEICなどの外部試験の進級要件化による英語力強化（★2年次から3年次にTOEIC400点以上）
  - ・海外研修やインターンシップへの参加
  - ・留学説明会や留学交流イベントの充実
- ③【受入・海外留学促進の共通事項】
  - ・単位互換の実施 ★2024（令和6）年度末までに新規5校
  - ・ダブル・ディグリー・プログラムの構築 ★2024（令和6）年度末までに新規2校
  - ・バーチャル留学の実施 ★2024（令和6）年度末までに新規4プログラム

### 戦略2 海外大学との連携促進

- ・大学間協定の戦略的締結 ★2024（令和6）年度末までに20%増
- ・海外拠点の設置及び活用 ★2024（令和6）年度末までに新規3拠点
- ・海外校の設立
- ・海外同窓会の設立

### 戦略3 国際共同研究の推進

- ・外部資金の獲得等を通じた国際的教育・研究プログラムの実施
- ・協定校等との国際シンポジウムの開催・共催
- ・海外派遣の強化等を通じた大学院生・若手研究者の育成及び外国人研究者の採用に向けた取組の充実

### 戦略4 大学の国際化に対応した教職員の資質能力の育成

- ・国際業務に必要な英語能力、国際感覚、対応能力の育成など、教職員の資質能力の向上

図 秋田大学国際戦略の概要

## 第2章 国際戦略の評価体制

国際戦略に基づいて、中長期的な視点から関係部署が連携して、本学の国際化に取り組めるようにするため、各年度の達成目標や具体的な活動内容等を盛り込んだアクションプランを作成する。

毎年度、高等教育グローバルセンター国際交流部門会議において、アクションプランの進捗状況に関する評価を行い、当該年度の成果と課題を明らかにする。これを受けて、残された課題の解決に向けて全学で取り組んでいくこととする。

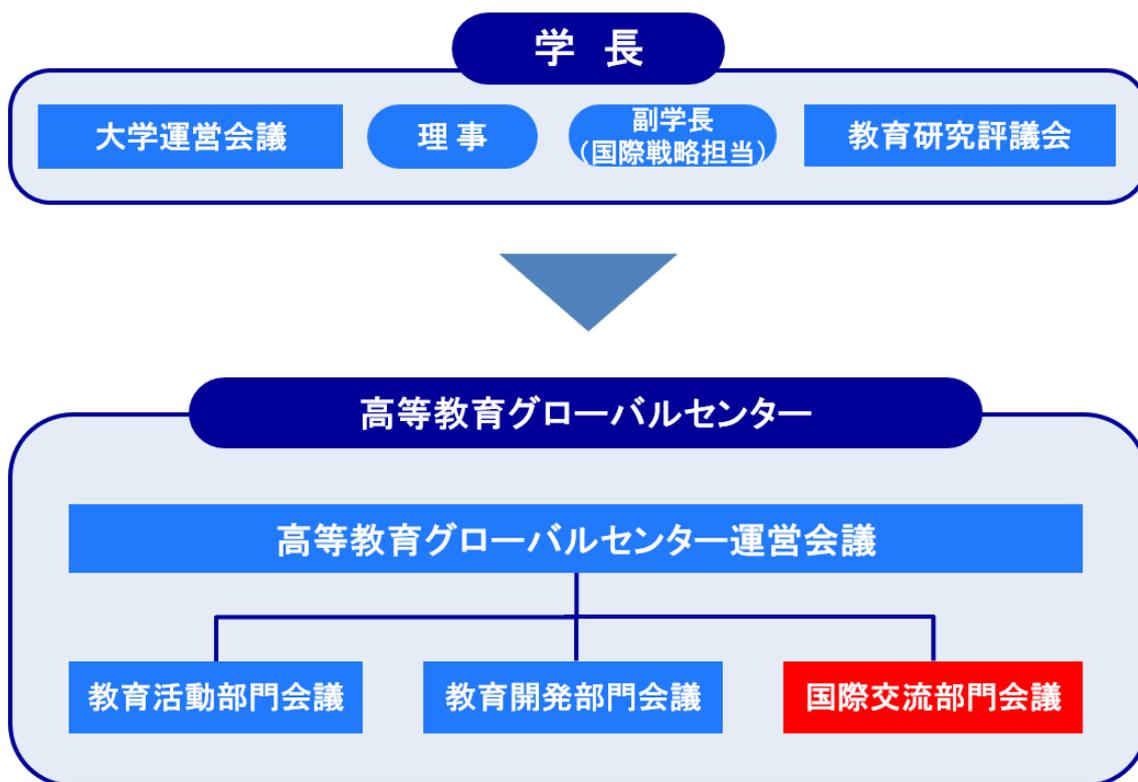


図 評価体制

### 第3章 国際戦略の見直し

国際交流部門会議において、国際戦略で規定した目標が達成されていると評価された場合には、必要に応じて、国際戦略の見直しを行うものとする。

(別紙)

## 学部ごとの数値目標

全項目 2024 (令和 6) 年度末までに達成

### 戦略 1 国際性豊かな人材の育成

- 各学部の留学・研修経験者数

国際資源学部	教育文化学部	医学部医学科	医学部保健学科	理工学部
全員	26 名	16 名	9 名	25 名

- 新規単位互換 (既存 6 校) の実施

国際資源学部	教育文化学部	医学部	理工学部
2 校	1 校	1 校	1 校

- 新規ダブル・ディグリー・プログラム (既存 1 校) の構築

国際資源学部	教育文化学部	医学部	理工学部
1 校	—	—	1 校

- 新規バーチャル留学の実施

国際資源学部	教育文化学部	医学部	理工学部
1 プログラム	1 プログラム	1 プログラム	1 プログラム

### 戦略 2 海外大学との連携促進

- 新規海外拠点 (既存 7 拠点) の設置

国際資源学部	教育文化学部	医学部	理工学部
1 拠点	—	1 拠点	1 拠点